



# どうとくだより

富陽小学校

2024.9.3



今回のどうとくだよりは、5年生の実践を紹介します。

教材名は、「みんなのつくえ」です。コロナ禍で教会に届いたパンを机に置いたところ、次々に新たなものが置かれ、思いがつながっていったという実際の話から、「人と人がつながるよさ」について話し合いました。

「人と人がつながるよさ」とは、相手の状況を思いやり、辛いことでもみんなで協力して乗り越えられるということ。授業では、困っている人のために自分にできることをした人たちの思い、さらにSNSを通じて呼びかけていった理由などについて考える授業を行いました。

## 教材名『みんなのつくえ』

### 【あらすじ】

福岡県北九州市で牧師をしている谷本さんは、近所の方からいただいたものを教会に来る人と分け合っていました。コロナ禍ではそれが制限されました。

そんなある日、教会にたくさんのパンが届きました。賞味期限はすぐ明日…そこで、教会の前に机を置いて、いただいたパンを置き、自由に持ち帰ることができるようにしました。翌日、パンはなくなりました。後日、同じ机に友人からもらったたけのこを置いたところ、次の日には、たけのこの横に別のものが置かれていました。その後も、相手のことを考えた品々のやり取りが机の上で続くのを見た谷本さんは、この活動を続けていきたいと考え、机を「みんなのつくえ」と名付けて、SNSで多くの人に呼びかけました。その話が広がり、教会にはさまざまな品物が届くようになりました。谷本さんの、つながりを大切に思う気持ちからの呼びかけが、たくさんの人の心を動かしました。

### 【授業のねらい】

困難な状況においても、相手を思いやり、人と人がつながることのよさがわかる。  
人とのつながりを大切に、自分にできることをしている人の姿に共感する。

「みんなのつくえ」について詳しく知りたい方は  
「南小倉バプテスト教会ホームページ」を  
ご確認ください。

## 学習後のふり返し

人と人がつながるには、思いやりが必要だと思いました。理由は、思いやりがないと、けんかとかになってつながることができないと思ったからです。

わたしは、人と人がつながるということは、それぞれやさしさや思いやり、相手への思いがあるからなんだと思いました。わたしもそんな人になって、心がつながれたらいいと思いました。

だれかのために行動すると、他の人も良さを感じて、同じことをするとわかりました。いい人どうしてつながると、またいい人が出てきて、いい人がふえると思いました。

人と人のつながりは、大切です。こまっている人や、かぜをひいている人がいた時に、思いやりがあると助けてあげられるなと思いました。

私は今日の学習で、人と人がつながることのよさは、相手と心が一つになることだと思いました。また、人と人がつながることで、とても温かい気持ちになると思ったので、これから相手への思いやりを大切にしようと思いました。

人と人がつながることのよさは、心、思いやりだと思います。この話のように、見つけたことをどんどん広げていって、少しでもこまっている人を助ける心がすてきだなと思いました。ぼくもこれから、心、思いやりをもって生活したいと思います。

ぼくは、人と人がつながろうとすると、みんながよろこぶし、「みんなのつくえ」にもものを置いた人も、知らないところでつながり合っていく良さがあると思いました。

人と人がつながるよさは、相手を思いやることができるようになることだと思いました。「みんなのつくえ」で、みんなにわたしも何かあげたり、もらったりしてみたいなと思いました。

人と人がつながると、みんなが幸せになれるたり、色々な人たちといっぱい交流できたり、みんながすこしやすくなったりするという、いろいろなメリットがあるということがわかりました。

人とつながることで、みんなが幸せになれるし、自分も相手のためにがんばれるから、私も思いやりをもって人とつながりたいです。

